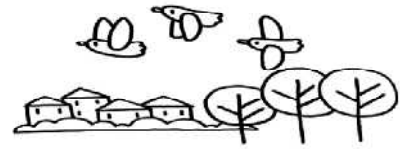


「金子安次さんの戦争・中国戦線の現実」



あなたは
撫順の奇蹟を
知っていますか

からの報告
10月27日(土) リックおがわ

10月27日(土) 荒天の中、40名の参加者をえて、金子安次さんのお話を聞く学習講演会が開かれました。現実の重みが聴く者の胸を打ちました。アンケートの記載と写真で報告します。

私の父は、「北支」(中国北部)で6年(?)も戦って運よく生還しました。金子さんとほぼ同年齢です。1945年8月、敗戦で捕虜になった日本兵たちが、何年もたって帰国できた、という話は、どこかで聞いて知っていました。それが、金子さんの「撫順戦犯管理所」のことであったことは今回初めて知りました。収容された1000人の戦犯が、求められたのは、「認罪」(住民への虐殺等の罪)であったこと。起訴された45人を含め、死刑囚はいなかったこと。帰国を許された金子さんが、日本で公安に付け回され、赤呼ばわりされ、仕事にもつげなかつたことなど、初めてわかりました。大人だけではなく、子供たちにも聞かせたいと思いました。

思想や理念を語るより、生の体験ほど強力なものは無いということを金子さんの話の中で知らされました。

現実の重さにたじろいでしまいます。多くの帰還兵が口を閉ざし、記憶を消してしまいたい思いだと思います。金子さんの勇気に、敬意を表します。「愛国心は戦争放棄だ。」の言葉がまさしく心に落ちてきます。

金子さんの決意に言葉もない。印象に残った話では、本当の愛国心とは戦争に反対すること。親は子が戦死して、神になっても決して嬉しくはない。被害者の側が、譲歩することは、大変なことだ。・・・私の今の気持ち。「日本国とは何だ！」

体験者の話は誠に感動的に聞きました。学者の話より、勝るものです。この問題は、本などを読んだだけでは理解は難しいと思います。私は多少戦争中の生活体験があるので、十分納得ができるものでした。

金子さん、高齢をおしてのお話ありがとうございます。「戦争をなくすことが本当の愛国心」という言葉をしっかり心に刻みました。一人でも多くの人に知って欲しいと思いました。

実際に、直接、中国の民間人の虐殺にかかわった方のお話を初めて聞きました。恐ろしくて途中で帰りたくなりました。でもこれは事実なのです。戦場では人は人でなくなるのだということに改めて感じました。

戦争は人間性を奪う。実体験の話。私は文章で読んだり、自分の書く場合もありますが、体験談はまた、重みがありました。本当に戦争に反対し戦う事が真の愛国者だと思います。



起立されて、豊饒とお話する、金子さん

埼玉「おがわ町九条の会」で、元兵士の証言を聴く学習会

角山 芹沢昇雄

この記事は「市民の市民による市民のためのメディア『JANJAN』(<http://www.janjan.jp/>)に芹沢さん(当会会員)が投稿し、掲載されたものです。筆者のご厚意で転載させていただきました。

埼玉県・小川町の「おがわ町九条の会」の主催で10月27日(土) 小川町民会館「リックおがわ」で戦争体験者の話を聴く「学習会」が開かれた。

当日は2002年に解散した中国帰還者連絡会(中帰連)に所属していた金子安次さんが招かれ、『金子安次さんの戦争・中国戦線の現実』と題して、金子さんが体験を証言した。

金子さんは1940年12月に現役入隊し5年間の戦争体験の後、シベリアに捕虜として5年間抑留され、更にその後、今度は戦犯として約1000人の仲間と共に中国に引き渡され、6年間「撫順戦犯管理所」に収容された。

そして、56年の軍事裁判で政府・軍高官の45人を除き「起訴免除」とされ帰国、その翌年に設立された「中国帰還者連絡会」に参加し、02年の解散まで自らの体験や加害の事実を証言しながら反戦平和と日中友好運動を続けて来た。

入隊の時、金子さんは母親の「コンペイトウ(階級)はいらないから無事帰って来い」との発言に、当時は「何と不甲斐ない母親か」と思っていた。

山東省で59師団だった金子さんは、初年兵訓練で罪もない農民を柱に縛り付け、中国人を兵士が銃剣で刺し殺す(実的刺突)訓練をさせられた。また、多くの虐殺、略奪、そして、強姦させないと怒った上官に「足を持って」と言われ、一緒にその女性を井戸に投げ込んだこと、その子が母親の後ろを追って井戸に飛び込み、上官の「苦しめない様に」との指示で、その井戸に手榴弾を投げ込んだ事などを証言した。

収容された「撫順戦犯管理所」では何の制裁も強制もなく、当時、中国人がコウリャン飯を1日2食しか食べられない時代に、白米を食べさせ肉野菜など十分に与えられ、寛大な措置を受けた。当初、彼らはこれで「処刑か?」と疑心暗鬼であったが、管理所の待遇や扱いはその後も変わらなかった。

それは周恩来の指示で、「処刑すれば家族は悲しみ恨むであろう。それでは憎しみの連鎖は断ち切れない。20年後には解る」と死刑も無期も認めなかった。そんな中で、かれらは徐々に「認罪」し鬼から人間に戻って行った。

帰国直後、近所の友人の母親は16年ぶりに帰国した金子さんを見て、「10年経とうと、20年経とうと、おめーは帰ってきた。おらの倅は死んじまったよ〜」と泣き崩れ、慰める言葉もなかった。そして、母親は帰宅した金子さんをしばらくの間じっと見つめ、自分の手でそっと金子さんの足を払う仕草をし、「お前はお化けじゃねえだろうな〜」と喜んだという。しかし、その母親は金子さんの帰宅を待っていたかのように、その2ヶ月後に亡くなった。

戦後も中帰連の人たちは公安に付け回され、多くの人が「赤だの、洗脳者だの」と就職ができず、金子さんも自営業で頑張ってきた。金子さんが心底反省したのは、帰国後、自分が所帯を持ち「妻や子がどんなに大切なものか」を知り、自分は中国でその家族に何をしたかを振り返った時、心から詫びたという。



会場にて、金子さんと筆者

さらに詳しく金子さんたちのことを知りたい方は以下を訪ねてください。

「NPO中帰連平和記念館」〒350-1175 川越市笠幡 1947-25 TEL&FAX: 049-231-9706

開館日(水・土・日) 「中帰連」URL: <http://www.ne.jp/asahi/tyuukiren/web-site/>

「おがわ町九条の会」は「憲法九条を守りたい」と思う方ならどなたでも入会できます。「おがわ町九条の会」は皆様の会費(一口200円)とカンパで運営されています。ご連絡をお待ちしています。(0493-72-4445 西田)

九条の会

22.2007.11.9 おがわ町九条の会
だより 〒355-0315 小川町みどりが丘 5-13-3(西田一雄気付け)
T/F 72-4445 Eメール kyujoyougawa@hotmail.co.jp

秋も深まってまいりました。「知は力」を合言葉に学習を重ねましょう。今回のテーマは「憲法と人権」。戦後60年間当たり前のように享受してきた「基本的人権」が改憲によってどのように変えられようとしているのか、9条をめぐる「解釈改憲」の諸問題にも触れて話されます。法律の専門家の先生をお招きしての学習会です。お問い合わせしてお出かけください。

学習講演会

「日本国憲法と人権」
～改憲は人権規定をどう変えようとしているか～

日時 12月8日(土)午後1時00分

会場 小川町図書館視聴覚室

講師 島田 浩孝氏(弁護士)

講師略歴

1971年熊谷高校卒業 77年早稲田大学法学部卒業
練馬区役所勤務を経て87年弁護士登録(川越法律事務所) 埼玉弁護士会川越支部長 埼玉弁護士会副会長 青年法律家協会埼玉支部長等歴任。現在、埼玉弁護士会人権擁護委員会委員長、川越九条の会呼びかけ人など務める。

リレーメッセージ



「聞いて!聞いて!私の声」……「おがわ町九条の会」では町のみなさんのいろいろな声を集めてゆきます。「九条へのおもい」「平和への願い」「現状への不平・不満」などなど、みんなに聞いてもらいたいことを、どうか事務局までお届けください(匿名でも結構です)。

今回は奥村さんにご協力をいただき、貴重な体験等をお寄せいただきました、ありがとうございました。

うなされないために

角山 奥村恵美子

20年ほど前のことが、知人が戦地中国での話をしていたので、人を殺めたことがあるのかと聞いてしまった。少しの間後、「戦地では、みな一人や二人殺しているんじゃないの…」
「刀か銃で？」出かかった言葉を飲み込んだ。

1981年、私の父は、50代の後半に、大手術を受け、直後、傍にいる私に、「そこに憲兵がいる。見てこい」と言うのです。何のことかわからないので、「うん？」というと、「ここに河があって、その向こうに憲兵がいて、上官が俺を追いかけてくる。」紙片に点を書きながら説明しているうちに、「あー夢か、怖かった」とつぶやく。肺結核のため、軍隊に入隊後、数ヶ月で除隊になり、戦地にも行っていない父が、術後の痛さではなく、20代のごくごく短期間の軍隊での生活にうなされている。たぶん、軍隊での生活は、異常な体験だったのでしょう。ずっと封印してきたものが、死を前にして暴れたのでしょうか。私は今も、半紙に、点と線だけで書かれた、父の悪夢の説明書きを捨てられないでいる。

私は1943年生まれ、戦争の体験はない。子供時代を除けば、私の置かれた状況のなかで、自分のやりたいこと、興味のあることを中心にして生きてきた。いまわの時に、自分が犯したことでうなされるのは仕方がないが、理不尽なことでうなされたくはない。戦時に生きざるを得なかった方々は、理不尽な体験を胸の奥にしまい込まなければ、生きてこれなかったのでしょうか。戦争を知る人が少なくなってきた今こそ、その貴重な体験を周りの人に話して、心を軽くしていただきたい。知っている人から直に聞いた人たちは、戦争のことが追体験として胸に刻まれるでしょう。軍隊での生活にうなされる父の姿を、私が忘れられないように……。

11月24日(土)
「九条の会全国交流会」

6,734(10/18現在・ホームページより)に達した、全国の「九条の会」が東京で全国交流会を開きます。小川町からも参加を予定しています。ご希望の方はお申し出ください。